

詩篇 22 篇

「苦しみの中での賛美」

22:1 わが神、わが神。どうして、私をお見捨てになったのですか。遠く離れて私をお救いにならないのですか。私のうめきのことばにも。

22:2 わが神。昼、私は呼びます。しかし、あなたはお答えになりません。夜も、私は黙っていられません。

22:3 けれども、あなたは聖であられ、イスラエルの賛美を住まいとしておられます。

22:4 私たちの先祖は、あなたに信頼しました。彼らは信頼し、あなたは彼らを助け出されました。

22:5 彼らはあなたに叫び、彼らは助け出されました。彼らはあなたに信頼し、彼らは恥を見ませんでした。

22:6 しかし、私は虫けらです。人間ではありません。人のそしり、民のさげすみです。

22:7 私を見る者はみな、私をあざけります。彼らは口をとがらせ、頭を振ります。

22:8 「【主】に身を任せよ。彼が助け出したらよい。彼に救い出させよ。彼のお気に入りなのだから。」

22:9 しかし、あなたは私を母の胎から取り出した方。母の乳房に抛り頼ませた方。

22:10 生まれる前から、私はあなたに、ゆだねられました。母の胎内にいた時から、あなたは私の神です。

22:11 どうか、遠く離れないでください。苦しみが近づいており、助ける者がいないのです。

22:12 数多い雄牛が、私を取り囲み、バシヤンの強いものが、私を囲みました。

22:13 彼らは私に向かって、その口を開きました。引き裂き、ほえたける獅子のように。

22:14 私は、水のように注ぎ出され、私の骨々はみな、はずれました。私の心は、ろうのようになり、私の内で溶けました。

22:15 私の力は、土器のかげらのように、かわききり、私の舌は、上あごにくっついていています。あなたは私を死のちりの上に置かれます。

22:16 犬どもが私を取り囲み、悪者どもの群れが、私を取り巻き、私の手足を引き裂きました。

22:17 私は、私の骨を、みな数えることができます。彼らは私をながめ、私を見ています。

22:18 彼らは私の着物を互いに分け合い、私の一つの着物を、くじ引きにします。

22:19 【主】よ。あなたは、遠く離れないでください。私の力よ、急いで私を助けてください。

22:20 私のたましいを、剣から救い出してください。私のいのちを、犬の手から。

22:21 私を救ってください。獅子の口から、野牛の角から。あなたは私に答えてくださいます。

22:22 私は、御名を私の兄弟たちに語り告げ、会衆の中で、あなたを賛美しましょう。

22:23 【主】を恐れる人々よ。主を賛美せよ。ヤコブのすべてのすえよ。主をあがめよ。イスラエルのすべてのすえよ。主の前におののけ。

22:24 まことに、主は悩む者の悩みをさげすむことなく、いとうことなく、御顔を隠されもしなかった。むしろ、彼が助けを叫び求めたとき、聞いてくださった。

22:25 大会衆の中での私の賛美はあなたからのものです。私は主を恐れる人々の前で私の誓いを果たします。

22:26 悩む者は、食べて、満ち足り、主を尋ね求める人々は、【主】を賛美しましょう。あなたがたの心が、いつまでも生きるように。

22:27 地の果て果てもみな、思い起こし、【主】に帰って来るでしょう。また、国々の民もみな、あなたの御前で伏し拝みましょう。

22:28 まことに、王権は【主】のもの。主は、国々を統べ治めておられる。

22:29 地の裕福な者もみな、食べて、伏し拝み、ちりに下る者もみな、主の御前に、ひれ伏す。おのれのいのちを保つことのできない人も。

22:30 子孫たちも主に仕え、主のことが、次の世代に語り告げられよう。

22:31 彼らは来て、主のなされた義を、生まれてくる民に告げ知らせよう。

はじめに

詩篇 22 篇は、メシヤ詩篇と呼ばれています。

それは、その内容がメシヤつまり救い主イエス・キリストを指し示しているからです。
この詩篇の著者はダビデです。彼は苦しみを経験しましたが、詩篇 22 篇に書き表された描写にぴったりと当てはまる彼の人生体験は特定できません。
ダビデは神の預言者だったのです。

使徒 2 : 29-31

2:29 兄弟たち。父祖ダビデについては、私はあなたがたに、確信をもって言うことができます。彼は死んで葬られ、その墓は今日まで私たちのところにあります。

2:30 彼は預言者でしたから、神が彼の子孫のひとりをして彼の王位に着かせると誓って言われたことを知っていたのです。

2:31 それで後のことを予見して、キリストの復活について、『彼はハデスに捨てて置かれず、その肉体は朽ち果てない』と語ったのです。

預言者は、神の聖霊に導かれて語ります。

ですから、ダビデは確かにたいへんな苦勞を経験しましたが、彼が実際に書いた内容は預言です。イエス・キリストご自身がそれを証明しておられます。

マタイ 27 : 46

27:46 三時ごろ、イエスは大声で、「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」と叫ばれた。これは、「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。

イエスは、十字架上で死なれる前、詩篇 22 : 1 を引用されました。

ダビデの言葉を明確に預言としてとらえておられたのです。

ですから、この詩篇は預言であり、同時にダビデ自身についてもあります。

この詩篇から、私たち自身がつらいときに慰めを得ることができます。

神は、私たちに物質的な祝福を与えてくださるかもしれませんが、そのような祝福いっぱい時期よりも、クリスチャンは苦しみのおかげでさらに成長できます。

ヤコブはイスラエルの十二部族にあてた手紙の中で、試練や悩みを耐え抜くことで私たちはクリスチャンとして完成されていくと教えてくれます。

ヤコブ 1 : 2-4

1:2 私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。

1:3 信仰がためされると忍耐が生じるということを、あなたがたは知っているからです。

1:4 その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは、何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となります。

この詩篇はふたつにわけて学びましょう。

前半は、苦しみの渦中にあるダビデの祈り (1-21 節) です。

後半は、苦しみの後のダビデの賛美 (22-31 節) です。

1. 苦しみの渦中にあるダビデの祈り (1-21 節)

ダビデが神に助けを求めて祈ったのは、3 つの重荷を背負っていたからです。これらの重荷は、イエスも背負っておられたと言えます。

a) ダビデは、主からの重荷を感じていた。(1-5 節)

この詩篇は冒頭から、十字架上のイエスを描きます。

イエスは、暗闇が 3 時間続いた後に、これらの言葉を引用されました。

マタイ 27 : 45-54

27:45 さて、十二時から、全地が暗くなって、三時まで続いた。

27:46 三時ごろ、イエスは大声で、「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」と叫ばれた。これは、「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。

27:47 すると、それを聞いて、そこに立っていた人々のうち、ある人たちは、「この人はエリヤを呼んでいる」と言った。

27:48 また、彼らのひとりがすぐ走って行って、海綿を取り、それに酸いぶどう酒を含ませて、葦の棒につけ、イエスに飲ませようとした。

27:49 ほかの者たちは、「私たちはエリヤが助けに来るかどうかわかることとしよう」と言った。

27:50 そのとき、イエスはもう一度大声で叫んで、息を引き取られた。

27:51 すると、見よ。神殿の幕が上から下まで真っ二つに裂けた。そして、地が揺れ動き、岩が裂けた。

27:52 また、墓が開いて、眠っていた多くの聖徒たちのからだが生き返った。

27:53 そして、イエスの復活の後に墓から出て来て、聖都に入って多くの人に現れた。

27:54 百人隊長および彼といっしょにイエスの見張りをしていた人々は、地震やいろいろの出来事を見て、非常な恐れを感じ、「この方はまことに神の子であった」と言った。

イエスはヨハネ 16 : 32 で、神がともにおられると弟子たちに告げられました。けれども、ここでは神がイエスをお見捨てになったと叫ばれました。

この個所は、唯一イエスが神に捨てられたと感じた場面です。

それにはちゃんと理由があります。神はここでイエスと神秘的なやり取りをなさっていました。

それがどのようにして起こったのか私たちには理解できませんが、起こった理由と、その業によって成し遂げたものが何かはわかっています。

神は御子からご自身を隠されました。それは、イエスが私たちの罪の罰を負われるためです。

コリント第二 5 : 21

5:21 神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方であって、神の義となるためです。

イエスが私たちの代わりに呪われてくださったのです。

ガラテヤ 3 : 13

3:13 キリストは、私たちのためにのろわれたものとなって、私たちを律法ののろいから贖い出してくださいました。なぜなら、「木にかけられる者はすべてののろわれたものである」と書いてあるからです。

イエスもダビデも、「わが神、わが神」と叫んでいることに注目してください。

ふたりとも、このような状況でも父なる神を信頼していました。

ふたりとも、神に見捨てられたように感じていましたが、それでもその状況で神が何かをなさそうとしておられると信じてやみませんでした。

これは、悩み苦しんで神に見捨てられたと感じたときに、私たちクリスチャンが実践できる非常に大切な教えです。

苦しみの中で、私たちクリスチャンは、神がその状況の中で何かをなしておられるという事実を決して見失ってはいけません。

苦しんでいる最中にその目的がわかる場合もあれば、苦しみを乗り越えた後にわかる場合もあります。どちらにせよ、わかれば神を賛美することができます。一方、天国に行くまでわからない場合もあります。

有名な賛美歌の多くは、苦難の人生から生み出されたものです。

ジョージ・マセソンは、讃美歌 360 番「疲れし心を」の作詞家です。彼には婚約者がいましたが、彼が全盲になったことが原因で、婚約を破棄されました。そのつらい喪失体験から、彼は、どのような人生の局面でも尽きない愛について書き記しました。その一番の歌詞は次のように歌います。

疲れし心を 慰むる愛よ
君より出(い)でにし この我が生命(いのち)を 誰に返さん

そして、全盲になった暗闇の中で、彼はこのように確信しました。

我が道を照らし 導く光よ
君より賜いし 心の灯火(ともしび) いざや掲げん

マセソン師は語ります。

「私の心を深く悩ます出来事が起こりましたが、この賛美歌はその苦しみの実です。私の中で歌詞を書くのにかけた時間の最短記録です。自分が考え出したというよりは、心の中の声をそのまま書き起こしたといった感じでした。歌詞全体は 5 分ほどで完成していました。」

これほどの苦しみから、こんなにすばらしい歌が生まれるとはなんと素晴らしいことでしょう。150 年経った今でも、この歌は葬儀や結婚式で歌われることがあります。私の母のお気に入りの賛美歌です。母は先週土曜日の 3 月 22 日で 92 歳になりました。

アドニラム・ジャドソンの証

ジャドソンは、現在のミャンマー、当時のビルマの開拓宣教師として知られます。

彼は、現地の人々に福音を伝えようとして、あらゆる困難に遭いました。

空腹と劣悪な生活環境に 7 年間耐えました。

また、17 ヶ月間も投獄され、ひどい仕打ちを受けました。

投獄中にはめられた鉄の足かせや鎖の傷跡は、彼の体に一生残っていました。

それでも彼は、釈放されるや否や、他の地方で福音を告げ知らせるために王の許可を求めました。王はその申請を却下してこう言いました。「私の民は、宣教師の言うことに耳を貸すほど愚かではない。しかし、その傷跡に感心して、あなたの宗教を受け入れては困るので、却下する。」

神を畏れないノンクリスチャンでも、聖書の神がしもべの苦労に報いてくれるかもしれないと思ったのです。

そのとおりです。神は常に、しもべの苦しみに報いてくださいます。

最後に、あるウェールズの人をご紹介します。

ロバート・ジャーメイン・トーマスは、1866 年 8 月に朝鮮の平壤近郊の川辺で殉教しました。

当時の朝鮮は、霊的にまったくの暗闇に覆われていました。

トーマス師は、斬首される直前、刑の執行人に聖書を手渡しました。

その執行人はその後クリスチャンになったと伝えられています。

さらに素晴らしいのは、その 41 年後、トーマス師が殺されたまさにその場所から、朝鮮のリバイバルが始まったことです。

現在では、英国の一部であるウェールズが霊的な暗闇の中にあります。そして、神は韓国人クリスチャンをウェールズの人々のもとに宣教師、伝道者として送っておられます。

ウェールズでどのような働きをしておられるかわかりませんが、神が彼らを用いておられると信じています。

ここまでの 1-5 節で、ダビデは神に見捨てられたと感じていましたが、6-11 節ではそしられていると感じています。

b) ダビデは人からそしられた。(6-11 節)

この個所でダビデが語った言葉は、とくにイエスの状況にあてはまります。

マタイ 27 : 41-43

27:41 同じように、祭司長たちも律法学者、長老たちといっしょになって、イエスをあざけて言った。

27:42 「彼は他人を救ったが、自分は救えない。イスラエルの王だ。今、十字架から降りてもらおうか。そうしたら、われわれは信じるから。

27:43 彼は神により頼んでいる。もし神のお気に入りなら、いま救っていただくがいい。『わたしは神の子だ』と言っているのだから。」

イザヤ書 53 : 3

53:3 彼はさげすまれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で病を知っていた。人が顔をそむけるほどさげすまれ、私たちも彼を尊ばなかった。

ダビデは、生まれてからずっと面倒見てくださったのは神だ、それなのに、なぜ神が自分を見捨てられるのかと、神に向かって言います。

ダビデは神を信頼することを学びました。そして、神はダビデをお見捨てにはなりません。

c) ダビデは律法によって責められた。(12-21 節)

バシヤンとは現在のゴラン高原です。昨年イスラエル旅行で私たちはそこを訪れました。ダビデは周囲を見渡し、敵を動物にたとえています。21 節では野牛、13,21 節では獅子、そして、16,20 節では犬と言います。

ダビデは十字架にかけられる犯罪者のように感じました。彼の言葉は確かに、十字架上でイエスに起こった事を彷彿とさせます。

詩篇 22 : 14-15

22:14 私は、水のように注ぎ出され、私の骨々はみな、はずれました。私の心は、ろうのようになり、私の内で溶けました。

22:15 私の力は、土器のかけらのように、かわききり、私の舌は、上あごにくっついてあります。あなたは私を死のちりの上に置かれます。

この個所は、十字架にかかったイエスが感じておられたことを正確に語っています。

イエスが苦しめられたのは、私たちのためでした。これは素晴らしい事実です。

世界一偉大な業は、神のひとり子イエス・キリストの苦しみから生まれたのです。

世界一偉大な業とは、私たちが罪赦され、永遠の死から解放されて、神の子になれることです。しかも、永遠に生きるための新しい体と新しい場所を約束されているのです。

最後に 19-21 節で、ダビデは神を見上げ、必要な力を与えてくださるよう改めて祈ります。21 節の最後には、「あなたは私に答えてくださいます。」ということばが、滝のようにあふれ出します。

ついに神がダビデを救いにきてくださったのです。

苦しみを通されたクリスチャンはたいがい、苦しみには限度があり、神がちょうどよい時に来て助けてくださるということを知ります。

永遠の苦しみは唯一、イエスを拒む人たちが出会う苦しみです。

ここがこの詩篇のターニングポイントです。ここからダビデは 22-31 節で賛美をささげます。

2. 勝利したダビデの賛美 (22-31 節)

ここからは苦しみから栄光、祈りから賛美へと変わっていきます。

ダビデとイエスの共通点は、これです。

イエスは「十字架を忍び」ましたが、今は、「ご自分の前に置かれた喜び」の中におられます。

ヘブル 12 : 2

12:2 信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。イエスは、ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、はずかしめをものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されました。

ユダ 24-25 節

1:24 あなたがたを、つまづかないように守ることができ、傷のない者として、大きな喜びをもって栄光の御前に立たせることのできる方に、

1:25 すなわち、私たちの救い主である唯一の神に、栄光、尊厳、支配、権威が、私たちの主イエス・キリストを通して、永遠の先にも、今も、また世々限りなくありますように。アーメン。

イエスは、十字架に向かわれる前、過越しの賛美を歌われました。(マタイ 26 : 30、マルコ 14 : 26)

そしてヘブル 2 : 12 によると、よみがえったキリストは、人々の前で神を賛美しました。

a) ダビデは、栄光ある御国を覚えて神を賛美した。(26-29 節)

この個所に描かれているのは宴会です。メシヤの王国を待ち望むユダヤ人にとってはなじみ深い描写です。(イザヤ書 25 : 6-9)

ユダヤ人は、主への和解のいけにえを携えて礼拝するときに、その一部を自分自身と家族や友人のために取っておきました。(レビ記 3-17 章)

この伝統は、未来の栄光ある王国の象徴となりました。

27 節は、「地の果て果てもみな、思い起こし、【主】に帰って来るでしょう。また、国々の民もみな、あなたの御前で伏し拝みましよう。」と語ります。

ダビデの預言には、神の未来のご計画に存在する異邦人も含まれています。

今でも、ユダヤ教正統派の人々は、礼拝の最後にゼカリヤ書 14 : 9 を引用します。

ゼカリヤ書 14 : 9

14:9 【主】は地のすべての王となられる。その日には、【主】はただひとり、御名もただ一つとなる。

b) ダビデが未来の神の働きを予見する。(30-31 節)

ダビデは、神の働きが続いていくという幻を見ます。それは当時のダビデを取り巻く状況だけでなく、未来の時代にかかわることでした。

私たちも、この考え方を理解する必要があります。私たちのクリスチャン人生での行いは、次の世代に影響を及ぼすのです。

十字架上でなされたイエスの贖いの御業による祝福は、すべての時代の人々への祝福です。ですから、私たちは福音と聖書を腐敗から守らなくてはなりません。

詩篇 22 篇の学びを終える前に、ここでいくつか私たちに適用できる教えを考えてみましょう。ダビデの苦しみは、何の目的もないものではありませんでした。そこには、人々を祝福するという目的がありました。

私たちも主に従い、仕える道のりで苦しみに遭うなら、その苦しみは他の人たちの祝福につながるのです。

コリント第二 1:6

1:6 もし私たちが苦しみに会うなら、それはあなたがたの慰めと救いのためです。もし私たちが慰めを受けるなら、それもあなたがたの慰めのためで、その慰めは、私たちが受けている苦難と同じ苦難に耐え抜く力をあなたがたに与えるのです。

では、今日の学びから、神のみことばに従うために苦しみを受けたとき、私たちに励ましてくれる原則を見つけましょう。

1. 苦しみは、結果的に神への賛美になる。

イエスはご自身の痛み苦しみによって私たちに救いをもたらしてくださいました。それはすべて、神がたたえられるためでした。これまで私の心に触れたクリスチャンの人たちも皆、何らかの苦しみを経験したことのある人たちです。

4月7日の礼拝に、英国人の女性が来られます。彼女はその日、証を分かち合ってくださいます。彼女もまた、苦しみを経験した人なので、皆さんはその証にきっと祝福されるでしょう。愛する人を失う悲しみを経験したことのある人は、その日の礼拝に必ず出席してください。

英国で30年ほど前によくこう言われました。「日本に宣教師として行きたいなら、まず苦しみを経験しないとね。」

苦労は私たちの人生に、他の方法では得られない深みを与えてくれます。そして、最終的にはそこから神への賛美が生まれます。

2. 苦しみは、悩んでいる人々に勇気や喜びをもたらす。

偉大な賛美歌作者として知られるアニー・ジョンソン・フrintは、つらい悩み苦しみの中で歌を書きました。

彼女は、眠れるようにとふかふかの枕をいくつもベッドに置きましたが、ひどく悩んでいて眠れませんでした。

けれども、その人生と歌の数々は、多くの人々に祝福と勇気を与えました。

3. 苦しみには贖いをもたらす力があり、イエスを救い主として受け入れていない人を信仰へと導く可能性がある。

神は、聖徒たちの苦しみを顧みてくださいます。そして、それが失われたたましいをキリストへと導くことがあります。神は、苦しみをういて、イエスが必要であることを示して下さることがあります。

この世の楽しみによって満たされることばかり求める人は、求めてきた楽しみが取り去られたときに、イエスに目を向ける場合があります。

それは、お金や職業かもしれません。病気や事故に遭うことかもしれません。

どんな状況であれ、神は私たちの失望をういて、イエスに目を向けさせてくださいます。イエスは、決して私たちに失望させられないお方です。

マタイ 16:24-26

16:24 それから、イエスは弟子たちに言われた。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。

16:25 いのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしのためにいのちを失う者は、それを見いだすのです。

16:26 人は、たとえ全世界を手に入れても、まことのいのちを損じたら、何の得がありません。そのいのちを買い戻すには、人はいったい何を差し出せばよいでしょう。